

カトリック

広島教区報

No. 112

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

ご復活メッセージ・じゃけえのう・典礼の窓
世界平和記念聖堂関連・J-CaRM
司祭助祭叙階式
殉巡ネット・司祭人事
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒

一〇三面
四〇五面
六〇八面
九面
十〇十二面

復活された主とともに 祈り、福音を宣べ伝えよう

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教

【祈りつつ、

福音を伝える使命へ】

今年、主の復活の祭日が新しい年度のスタートと重なり、四月一日に祝われました。広島教区のすべての司祭、修道者、信徒の皆さんに、主の復活の喜びを申しあげます。主イエスは復活して、今もわたしたちと共に働いてくださっていることを心に留めて、「福音をのべ伝える使命」について考える新年度の活動に励んでいきたいと思えます。

さて、広島教区において



白浜満司教

は、昨年度、「すべての人の平和を祈る使命（祭司職）」について振り返る一年を過ぎました。とくに各地区で、ミサについての研修会を開催して、復活された主イエスが、エマオへ向かう弟子たちにおこなってくださいったように（ルカ24・13〜35）、今もミサの中でわたしたちのために、主イエスが、聖書を紐解いて教え、パンを裂いてくださったことを確認しました。第二バチカン公会議は、典礼、とくに感謝の祭儀（ミサ）が、教会活動の目指す頂点であり、教会のあらゆる力の源泉であると教えています（『典礼憲章』十）。ミサの中で、復活された主イエス・キリストに出会い、神のことは

主のご復活おめでとうございます

広島教区長 白浜 満 司教
司教総代理 荻喜代治 神父

教区本部事務局 服部大介 神父
平和の使徒推進本部 野中 泉 神父
広島司教館 豊田尚臣 神父
齋藤真仁 神父
久保裕巳 助祭

広島地区 (地区長 荻喜代治 神父)
山口島根地区 (地区長 肥塚修司 神父)
岡山鳥取地区 (地区長 山口道晴 神父)

鞆町協働体 (鞆町・東広島・翠町・呉)
(鞆町主任 荻喜代治 神父)
(鞆町助任 服部大介 神父)
(鞆町助任 バート 神父)
(東広島主任 トウアン 神父)
(翠町主任 アルベルト神父)
(呉主任 深堀升治 神父)

観音町協働体 (観音町・三篠・廿日市)
(観音町主任 野中 泉 神父)
(観音町在任 リカルド 神父)
(三篠主任 中村健三 神父)
(廿日市主任 アンリ 神父)

祇園協働体 (祇園・可部・三次・向原)
(祇園・可部主任 加藤信也 神父)
(三次・向原主任 金 楹深 神父)

備後協働体 (三原・尾道・福山)
(三原主任 西江和司 神父)
(尾道・福山主任 アルナルド神父)
(尾道・福山助任 フレデリック神父)

山口協働体 (山口・地福・防府・萩)
(山口・地福主任 百瀬文晃 神父)
(山口助任 カンガス 神父)
(山口協力 桜井彦孝 神父)

下関協働体 (細江・長府・彦島)
(細江・彦島主任 佐々木良晴神父)
(細江・彦島主任代行 作道宗三 神父)
(細江・彦島補佐 ジョーティ 神父)
(長府主任 アルテリヨ神父)

下関労働教育センター
(所長 中井 淳 神父)
(協力 林 尚志 神父)
(主任 片柳弘史 神父)
(協力 三喜田虎太神父)
(協力 池尻廣幸 神父)
(協力 オレギ 神父)
(協力 西山和男 神父)

宇部協働体 (宇部・北若山・高千帆)
(主任 片柳弘史 神父)
(協力 林 尚志 神父)

岩徳協働体 (岩園・光・柳井・徳山・下松)
(岩園主任 福田誠二 神父)
(光 柳井主任 肥塚修司 神父)
(徳山主任 柴田 潔 神父)
(徳山協力 高橋義博 神父)
(下松主任 原田豊己 神父)

伯耆協働体 (松江・出雲・米子・境港)
(松江・出雲主任 後藤正史 神父)
(松江・出雲助任 金 起煥 神父)
(米子・境港主任 尹 兌榮 神父)

岩見協働体 (津和野・浜田・益田)
(津和野主任 山根敏身 神父)
(浜田・益田主任 清水 弘 神父)

愛徳修道士会
ヘンデリクス修道士
ホントレー修道士
牧田真一修道士

岡山協働体 (岡山・岡山西大寺・ロザリ)
(岡山・岡山西主任 瀧井英昭 神父)
(岡山・岡山南助任 大西勇史 神父)
(玉野主任 猪口大記 神父)
(津山主任 金 洪錫 神父)
(岡山協力 ミッシェル神父)
(倉敷協働体 (倉敷・玉島・水島)
(倉敷主任 ブルニ 神父)
(倉敷・玉島・水島主任 バルト 神父)
(助任 ロイ 神父)
(助任 レイモンド神父)

鳥取協働体 (鳥取・倉吉)
(鳥取主任 山口道晴 神父)
(倉吉主任 野崎一夫 神父)
(倉吉在任 塚田健統 神父)
(倉吉在任 牛尾幸生 神父)
(倉吉在任 イエズス会 庚午修道院
(倉吉在任 加藤信也 神父)

イエズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

イェズス会 長束修道院
ヴェーメイヤー神父
曾根忠明 神父
裏津洋二 神父
塩谷憲策 神父
アレックス神父
河村剛 修道士
菜袋勝士 修道士

とキリストのからだ（聖体）の食卓で養われるわたしたちは、キリストと一つに結ばれます。そして、昇天する前に主イエスが弟子たちを派遣されたときのように、わたしたちも主イエスから宣教命令を受けるのです。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・19〜20）。

主イエスから今も派遣されているわたしたちは、すべての人のために祈りつつ、神の福音をのべ伝え、そして、救いの恵みにあずからせるために、信じる人々を洗礼へと招くように促されているのです。この四月から始まったばかりの二〇一八年度は、広島教区にとって、福音を伝える使命（預言職）について振り返り、この使命をよりよく果たして行くためにチャレンジしていく一年になります。

【神のことばに親しむ】

聖パウロは、テモテに宛てた手紙の中で、次のように勧められています。「あなた自身は、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたはそれをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きのもとに書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして神に仕える人は、どのような善い業をもおこなうことができるように、十分に整えられるのです」（Ⅱテモテ3・14〜17）。

わたしたちは、「キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵」を学んで、人々にキリストをのべ伝え、またその愛を証しするため、社会の中で「善い業」に励むことができるよ

う、より一層、聖書に親しむように努めたいと思います。聖ヒエロニモは、「聖書を知らないことは、キリストを知らないことである」と教えています。聖書は、読めば読むほど味わい深くなり、自分の心に神の声がより強く響いてくるようになり、さらに、それに応えて生きる（行動を起こす）ことにより、神のことばがわたしたちの中で開花して行くのです。「福音を伝える使命」を振り返る一年の間に、広島教区の皆さんには、改めて、旧約聖書と新約聖書を通読することを、強くお勧めしたいと思います。

平和の使徒推進本部では、神のことばに親しんでいただくために、聖書の通読や写経のキャンペーンを企画しています。間もなく具体的な企画が、皆さんに伝えられることと思います。これらの企画を利用して、聖書の通読や写経にチャレンジしていただきたいと思います。

じゃけえのう

『過去をふり返ること
は、将来に対する責任を
担うことです』

聖ヨハネ・パウロ二世が残してくださったこの言葉に、教会の歩みをふり返って私たちの現代の使命を照らしてみたいと思います。

イエス様に派遣された弟子たちやこの日本にいられた多くの宣教師の働きによって、福音が宣べ伝えられ、少しずつ教会が始められ、現代に至ってきたのです。それはけっして簡単な仕事ではありませんでした。いろいろな国で何百年の間に迫害を受けて命を落としたクリスチャンは多かったです。教会がなかったところに汗を流してこつこつ福音を宣べ伝えて、教会が出来たのです。

現代の私たちは、すでにできた教会にとどまり、新しいところに福音

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

を伝えるという勢いがなく、悪く言えば、安全なところに退いてしまいつつあります。全世界に行つて福音を宣べ伝えなさいというイエス様の力を失ったみたいな気がします。先人の模範に倣つて、どんなに難しくても全世界に行きなさいというイエス様の呼びかけに従つて、安全な所に退くのではなく、福音が十分に伝えられていないところで、苦勞があつても働き続けることが必要です。

そのように、私たちがイエス様から先人たちを通して手渡された使命を果たしていくことが求められます。

これは、私たちへのチャレンジです。それに応えることによつて委ねられた責任を担うことができるのだと思います。

（ヴァイタリ・ドメニコ神父）



津和野 乙女峠まつり

前夜祭 5月2日(水)

「津和野の殿さま、殉教者も通った津和野街道」

時 間：19：00～

講 演：肥塚 倅司 神父（広島教区司祭）

場 所：幼花園ホール
津和野カトリック教会となり

2018年 5月3日 (祝・木)

10：30 聖母行列（津和野教会～乙女峠）

12：00 野外ミサ（乙女峠）

司 式 者 白 浜 満 司 教
(カトリック広島司教区 教区長)

【お知らせ】

- ・津和野での宿泊の予約は、観光案内へお問合わせください。
津和野観光案内 (電話 0856-72-1771)
- ・昼食弁当 (お茶付き 700円) ミサ後峠販売テントにて引き渡しの申し込みは、
くぼた弁当 (電話 / FAX 0856-72-1139)
つむぐ SHOP (電話 0856-73-7028 / FAX 0856-73-7027)
- ・峠より下りての昼食 (800円～1500円) をお望みの方は下記店と交渉してください。
遊 亀 (電話 0856-72-0162 FAX 0856-72-3246)
隅外村ふる里 (電話 0856-72-1860 FAX 0856-72-1815)
沙羅の木 (電話 0856-72-1661 FAX 0856-72-0372)
- ・雨天決行

津和野カトリック教会

〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町後田口 66-7
電話 0856-72-0251 / FAX 0856-72-0282



津和野乙女峠まつり2018 ポスター

「小グループでの聖書の勉強会や分かち合い」

個人的に一人で聖書に親しみ、黙想することも素晴らしいことですが、小教区において、あるいは、さらに小さな地区・班・組などの小グループで、一緒に聖書の勉強会をおこなったり、あるいは聖書を読み、黙想し、その後、各自が心に響いてきたことを分かち合ったりすることは、聖書をもっと深く味わう体験

となるに違いありません。また、もしその小グループの中に、聖書について学びたい人、キリスト教に興味がある方々を招くことができたら、どんなに素晴らしいことでしょうか。神のことにばには不思議な力があります。わたしたち一人ひとりが聖書に親しみ、それによつて生かされている喜びを、いろいろな方法をもつて、周りの人に伝える使命を果たして行きたいもので

す。聖パウロがテモテに宛てた激励の言葉を、わたしも皆さんに繰り返したいと思えます。「御言葉をのべ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。……あなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教者の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい」(Ⅱテモテ4・2a+5)。



シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

前回、典礼は「神の恵み(神秘)の世界」への窓のようなものであると説明していました。わたしたちは、地上で生活をしながら、「ことばとしてのしを伴う祭儀」(典礼)を通して、神秘の世界を体験するよう招かれています。この典礼の主催者(大祭司)は、復活された主イエス・キリストです。ヘブライ人への手紙は、次のように教えています。「イエスは永遠に生きておられるので、変わることはない祭司職を持っておられるのです。それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、ご自分を通して神に近づく人々を、完全に救うことができになります」(7・24～25)。大祭司で

あるキリストと聖霊が共に働いているという信仰の目が、典礼理解のために不可欠です。典礼は、聖霊を通して、復活された主イエスがへりくだって人間に奉仕してくださる場であり、同時に、頭(大祭司)である主イエスをおして、わたしたちが父である神に礼拝をささげる場です。さらに、「キリストは、祭司職を自分の教会を通して継続している」(『典礼憲章』八十三)ことに留意したいと思えます。「キリストの神秘的なからだ」である教会のメンバー一人ひとりも、洗礼によって受けた聖霊の霊的な絆によって、頭であるキリストに結ばれて奉仕するのです。こうして、「教会は、感謝の祭儀だけでなく、他の方法、特に聖務日課を果たすことによつて、主を絶え間なく賛美し、全世界の救いのために代願している」(『典礼憲章』八十三)のです。

重要文化財 世界平和記念聖堂 記念聖堂、三年目の工事始まる

司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の保存修理事業は、四月から三年度目の工事に入ります。三月までは、鍾塔と聖堂の耐震補強工事、外壁の補修工事、内陣（大祭壇の置かれたところ）のドーム天井の改修、銅板葺きの大屋根の葺き替



世界平和記念聖堂
正面の工事は完了したが、塔はまだ耐震補強工事のためシートに覆われた状態

え、ステンドグラスと鋼製サッシの補修工事を行いました。今年度は、聖堂内部の壁の補修と電気設備、空調設備の改修を行う予定です。なお、当初計画になかった地下聖堂の床や壁からの漏水対策、ステンドグラス窓の周りの壁

面の止水対策等について、文化庁と事業計画の変更協議をしています。聖堂内の壁には、白くなった漏水の痕が多く見られます。これらの原因となっている外壁からの雨水の浸透経路を確かめ、改修します。この変更が認められれば、追加で工事を行うことになりません。当初予算が増額しますが、聖堂を長期にわ

たり維持保存して行くために必要な対策です。小教区の信徒の皆様には、聖堂を維持・保存するために、引き続きご支援いただくようお願いいたします。

記念聖堂は、一九六〇年七月七日にドミニコ野口由松司教（一九六〇年六月にローマでヨハネ二十三世から司教叙階）が着座されて司教座聖堂となりました。それまでは、一九二三年に大阪教区から分かれた代牧区（広島使徒座代理区）でした。この時にはパリミッシェン公会から宣教・司牧を受け継いだイエズス会のデイーリング大司教が名義司教として岡山教区に教区長館を構えました。日中戦争下の一九三九年に、二代目のロス司教が教区長館を幟町教会に移し、広島が中国五県からなる代牧区のセンターとして役割を担うことになりました。その後、教区の教勢の発展に伴い、代牧区から司教区に昇格し、記念聖堂が司教座聖堂として新たな役割を担うことになりました。一九八一年二月には、原子爆弾で犠

牲となられた人々の追悼と世界平和を祈願するためにとヨハネ・パウロ二世が記念聖堂に來られました。広島教区では、それを記念して、平和の集会をこの聖堂で毎年続けています。平和活動の拠点としても記念聖堂を保存し、活用することが広島教区の召命の一つです。聖堂の活用と保存活動にご理解いただきますよう、重ねてお願い致します。

二〇一八年 司祭・修道者のダイヤモンド・金祝

◆ダイヤモンド祝六十周年

《イエズス会》山口教会

Fr.カンガス・ルイス 一九五八年 三月十八日 叙階

◆金祝五十周年

《イエズス会》徳山教会

Fr.高橋義博 一九六八年 十二月十四日 叙階

《純心聖母会》小野田修道院

Sr.松岡キヨ子 一九六八年 八月二十八日 初誓願

Sr.小原美智代 一九六八年 八月二十八日 初誓願

《援助マリア修道会》

Sr.吉岡知子 一九六八年 六月二十一日 入会

Sr.足門澄枝 一九六八年 八月十五日 入会

Sr.田部敏子 一九六八年 十月二十七日 入会

世界平和記念聖堂募金

郵便振替口座

口座名義：カトリック広島司教区

口座番号：01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

広島地区教会学校リーダー会

二〇一七年度

第三回研修会の報告



左、「手のひらを太陽に」の体操を行う白浜司教

去る二月四日(日)、幟町教会で、広島地区教会学校リーダー会の研修会が「信仰継承〜神さまに愛されているから〜」をテーマに行われた。講師に白浜満司教をお迎えし、ミサ後に、「復活されたイエスさまと出会う」をテーマに子ども向けのお話を(大人も聞き)、その後、大人向けの講話をいただいた。白浜司教は子どもたちに「朝と夜一回ずつお祈りしましょう」と。ご復活をチヨウの一生に例えたお話と歌詞に虫が出てくる「手のひらを太陽に」の体操を

教えてくださった。

石造りの聖堂の厳しい冷え込みの中、遠くは福山・尾道教会より参加があり、大勢の方々と共に白浜司教のお話を聞く事ができた恵みに心から感謝したい。子どものおやつ時間には、近隣の幼稚園の先生方と大西助祭のサポートを受け、盛会のうちに終えることができた。高校生までの子ども七十五名、リーダーを含む大人百十名が参加した。(観音町教会 白砂暢栄)

2018年度召命学校十代クラス (旧予備神学校)

日程：①2018年9月23・24日

②2019年2月16・17日

対象：小5・小6・中高校生の男女

場所：世界平和記念聖堂 (幟町教会)

召命学校十代クラスは、上記以外に各地区ごとに年に2回以上開催される予定です。詳細は、各地区センターにお問い合わせください。

J-CARM広島便り

幟町教会 小松 公寛

今教会には沢山の外国人が来ています。この外国人を同じ教会員として意識している人はどの程度いるのでしょうか。一つの教会がいくつにも分裂している状況の教会もあれば、外国人が教会運営に欠かせなくなっている教会も出てきています。広島県の外国人を二〇一六年十二月末の統計で見ると、中国籍と韓国籍を除いた一番多い外国人はベトナム人で七千八百八十人、次いでフィリピン人の六千八百九十一人そしてブラジル人の二千二百八十三人と続いています。これらのカトリック教徒人数を推計すると、ベトナム人が四百九十人(七%)、フィリピン人が五千七百二十人(八十三%)、ブラジル人が千六百六十七人(七十三%)の合計七千八百七十七人となります。この内教会に来ている

のは極わずかであり生活基盤のできた問題の少ない人達と言えます。大半が教会とは縁のない生活を送っており、様々な問題を抱えています。技能実習生同様労働問題を始め、DV、離婚、家族の死亡、在留資格、子どもの教育また日本語の問題などがあります。労働問題はユニオンに相談できるとしてもそれ以外の相談場所は無く問題を抱えたまま、苦しみながら生活している現実があります。外国人はこれから増加の一途をたどりカトリック教会は外国人抜きには成り立たなくなるのは明らかです。外国籍の教会に来ていない人達、様々な理由で教会に来れない人達にも目を向ける必要があるのではないのでしょうか。外国人の抱える問題は日本人にも同じようにあります。外国人問題と分け隔てせず一つの社会問題としてとらえていく必要があります。教皇フランシスコは「使徒的勧告 福音の喜び 四十九」に次



幟町教会でのミサの様子 多国籍の人々が集う

のように述べています。「出向いて行きましよう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いて行きましよう。・・わたしは、出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会のほうが好きです。閉じこもり、自分の安全地帯にしがみつくと気楽さゆえに病んだ教会よりも好きです。中心であろうと心配ばかりしている教会、強迫観念や手順に縛られ、閉じたまま死んでしまいう教会は望みません。」 綺麗ごとの世界はもうやめて蓮の花の咲く泥沼の中に飛び込んでみませんか。イエスの求めた世界が開けてくるはずですよ。

司教の授手を受ける大西新司祭



叙階式、山口教会で

ヘルマンヨセフ大西^{ゆうじ}勇史新司祭 ヨセフ久保^{ゆうき}裕己新助祭 誕生

三月二十一日（水・祝）、十三時より山口サビエル記念聖堂で、ヘルマンヨセフ大西勇史助祭の司祭叙階式とヨセフ久保裕己神学生の助祭叙階式が行われた。雨の降る中、白浜司教の主司式で六十人以上の司祭団を含む修道者、信徒約九百人が三つの会場（聖堂、ダミアンホール、一階テラス）に分かれて共にミサをささげた。叙階式ミサの様子は、インターネットを通じてライブ配信された。その様子は平和の使徒推進本部のYouTubeページ (<https://goo.gl/BY24pL>) で視聴することができる。なお、大西新司祭は、岡山教会と岡山南教会の助任司祭として派遣される。



平和の使徒推進本部YouTubeページのURLをスマートフォンやPCで視聴することが可能



養成担当の服部神父より新しいカズラ（祭服）が渡された 左、服部神父 右、ミカエル金神父

「美しい希望を胸に」

大西勇史新司祭

皆さまのお祈りとご支援のお陰により、去る三月二十一日に司祭叙階の恵みを頂くことが出来ました。

司祭（神父）は、すべての人に神のことばを告げ知らせます。

司祭は、すべての人の必要なものとその祈りを父である神に取り次ぎます。

司祭は、すべての人を一つの心に結ばれた神の家族、兄弟として集め、本当の親である神のもとに導きます。

要するに、司祭とは「すべての人のために生きる人」であり、叙階式とは「すべての人のために生きて欲しい」というあちら側からの呼びかけと「すべての人のために生きます」というこちら側の応答が結ばれる約束の式とも言えるでしょう。

そこで高らかに約束を交わしたものとして私は、すべての人に希望を与えるために生きていきたい。信

者、未信者、他の宗教、人種、国籍、性別、社会的立場、などなど。

この分断の世にあって、それらを一つに統べ、貫き通す、キリストの福音を配って歩きたい。どうか、そんな司祭職を果たせませう、引き続き祈ってください。そして、ついてきてください。キリスト者全員で、天の国の完成のために仕えあつて参りましょう！

「叙階に寄せて」

東京教区 大西勇史推薦司祭
晴佐久昌英神父

司祭ほど楽しく、福音的な喜びに満ちた人生はありません。もちろんつらいこともありますが、それを吹き飛ばす聖なる感動を、毎日のように体験できるからです。キリストは今もいつも人々の中で働いておられますが、その実りを日々目の当たりにするということにおいては、たぶん司祭はだれよりも恵まれた存在なのではないでしょうか。ひとこと福音を語っただけで、希望を取り戻していく人々。居場所のない若者た

ちと一緒にごはんを食べているときの、あの笑顔。ご聖体を渡した瞬間、目の前でこぼれ落ちる一粒の涙。ああ、司祭になってよかった、何度生まれ変わってもこの道を生きたいと、心の底からそう思います。

先日招かれた諸宗教シンポジウムでお会いした仏教の僧侶が、教皇フランシスコに会ったときのことを話してくれました。僧侶は教皇に質問したそうです。

「まずまず世俗化していく現代社会の中で、宗教者はどうすればいいのでしょうか」と。教皇は、こう答えました。「神父は、教会から外に出ていくべきだ。人々と交わり、聖書の言葉を使わずに語りかけなければならぬ」。

日本の教会は、まだ始まったばかりです。いや、まだちゃんと始まっていないくらい。まだ福音を知らない人が一億人以上いるこの国で司祭に叙階されるということは、どれほど恵まれていることでしょうか。新司祭に申し上げる言葉があるとすれば、「主



と共に働く喜びを忘れないで！」のひとことしかありません。外に出ることを恐れないでください。たとえそれゆえに苦難があつたとしても、主は言われます。「あなたに幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある」(マタイ5・11-12)。司祭の喜びは、教会の希望です。

自分が大西新司祭を直接知ることになったのは、神学生の養成担当者として那須のガリラヤの家(東京カトリック神学院初年度養成所)を訪ねて行ったときです。広島教区の猪口神学生への訪問でしたが、ここには実は松江教会出身の東京教区の神学生がいると言われ、なぜうちではないのかと驚いたのを覚えています。その後、自分の同期の稲川神父(東京教区)の教

「真剣に・・・」
 広島教区 神学生養成担当者
 服部大介神父

会です。夏休みの間過ごしているときに会つたり、東日本大震災後の米川ベース長をしているときに様子を聞きに行つたりという、点でのつながりしかありませんでした。その彼が突然広島教区に受け入れてほしいという話で現れたのは、ちょうど同期で過ごした猪口神父が司祭に叙階される直前だったように思います。当時の前田司教が様子を見ながら受け入れるということで、司教館で一緒に過ごすことになりました。

彼を見ていて感じたのは、素直な好青年なのですが、自分の現状が本当に分かっていけるのだろうか、今しなければならぬということに真剣さが足りないのではないかという思いでした。本人は広島教区に來れば、割とすぐに司祭叙階への歩みを進めると感じていたかもしれませんが、結局5年近くの年月を経ることになり、それは本当に必要な時間だったと自分でも思っています。幟町教会の教会学校を始め、高校生の中ブローや青少年情報セン



山口サビエル記念聖堂内 叙階式参列者の集合写真

ターに関わってもらい、若い人たちの関わりでは良い評価をもらうようになりました。説教も人の顔を窺うのではなく、自信をもって語っているように感じています。大西新司祭

の司祭召命の直接のきっかけとなった晴佐久神父の影響を時々感じるがありますが、ぜひともいい影響を大切にしてほしいと思っています。

これまでの道のりを長く

感じていることと思いきま
す。しかし、本当の始まり
はこれからです。ぜひとも
自分のすべきことを真剣に
受け止め、司祭としての立
場をしつかりと考えてくだ
さい。広島教区内出身の日
本人司祭として、これから
の広島教区のために頑張っ
てくれることを期待してい
ます。

「主に委ねて
羽ばたいてください」

幟町教会

益田 眞・由身子

大西神父様、遂に司祭叙
階を迎えられましたこと、
心からお慶び申し上げます。
す。

広島教区に大西助祭をお
迎えてきたことは、大きな
お恵みでした。大西助祭の
存在は、特に青年達の大き
な求心力になり、彼らは大
西助祭を通して、生きた信
仰を育んでいきました。

大西助祭のメッセージ
は、日常の身近な経験を通
してキリストを生き生きと
証ししていて、心に響き
ます。ミサの説教はもち
ろん、例えば坂本美雨さ

んのコンサートで挨拶さ
れた時もそうでした。キ
リストを知らない人々を
前に、キリストのことを
知ってもらいたいという
思いに溢れていました。



叙階式ミサの終わりで感謝のスピーチを行う大西新司祭

神様が、大西新司祭の
タレントを赴任地でさら
に花開かせてくださるよ
う、心からお祈りしてい
ます。どうぞ全てを主に委
ねて、思いっきり羽ばた
ってください。(益田 眞)

キリストのように話す聖
職者に、私は初めて出会
いました。「神様はあなたを
愛している」という福音を
いつも心の中心に置き、そ
れをためらうことなく口に
する大西助祭。忙しすぎた
り、持つていけば幸せかの
ような、自分が本当に大切
にされているとは感じにく
い今だからこそ、「あなた
は必要とされている」と真
顔で叫んでくれる指導者が
必要です。

幟町教会の中高校生達は心

から楽しくて、大西助祭の
話を聞き教会に集いまし
た。私も教会学校リーダー
をご一緒し、「集う仲間の
喜びが周りに伝わってい
く」キリストの姿勢を学び
ました。その中で、自己中
心で神に委ねられない私を
毅然と叱責くださったこと
は、目からウロコ、一番の
恵みでした。

大西神父様、これまで本
当にありがとうございまし
た。これからもキリストの
方法で、「神様を愛した
い」信徒を育て導いてい
てくださいますよう、一層
よろしくお願いいたしま
す！(益田 由身子)

「大西勇史神父様へ」
青少年情報センター
中塚汐音

大西勇史神父様と初めて
お会いしたのは、私が中学
三年生の頃、初めて中国ブ
ロックカトリック高校生大
会(以下、中ブロ)に参加
した時でした。当時、神父
様は助祭叙階されてすぐ中
ブロに駆けつけ、講話をし
てくださいました。東日
本大震災後、米川ベース

のベース長として被災され
た方々に寄り添われた中で
感じたことや、自らの召命
について、私たちに力強く
語ってくださいました事を今
も覚えています。

それ以来、お会いすると
いつも神父様から笑顔で声
をかけてくださり、私のこ
とを心に留めてくださって
いることに嬉しく感じると
共に、当時、なんておおら
かな人なのだろう！そして
イエスさまの言葉をわかり
やすく素直に伝えてくださ
る方なのだろう！と思った
のが第一印象です。

そして、私が大学進学で
広島に来て青年活動をし始

め、沢山の場面で関わる中
で、「何があっても大丈夫
夫。今ある悩みや不安は神
様がいつも一緒にいてくだ
さっているから必ず解決す
ると背中を押してください
ているんだよ。」と、一人
ひとり神様から頂いた大
切な人であることを、愛を
もって示してください、こ
れまでは内向的で自信を持
てなかつた私に魔法の言葉
をくださいました。

神父様は青少年担当とし
て私たち青年だけでなく、
小学生・中学生・高校生・
青年と幅広い世代と多くの
行事に関わってください
ています。時に子ども達と
遊んだり、聖書の話を分か
りやすく分かち合ってい
たりやすくと身近な存在と
さつたりと身近な存在とし
て、多くのことを教えてく
ださいました。

そんな神父様と出会って
六年。何だか神父様と呼ぶ
のが恥ずかしいですが…。
司祭叙階されたこと、本当
に嬉しく思っています。神
父様のこれまでの経験と素
敵な人柄で、多くの人の
心に神様のみ心が届き、温
かくひだまりのように感じ



司教の按手を受ける
久保新助祭

ることが出来ますように
。。
大西勇史神父様のこれか
らのご活躍を、私たち青年
一同、心よりお祈りしてい
ます。どうぞ、これから
も、私たちをお導きくださ
い。
本当に、本当におめでと
うございます。

「助祭叙階の恵み」
久保裕己 新助祭

この度、助祭叙階の恵み
に与る事ができました。共
に喜び、共に祈つてくだ
さったこと本当にありがと
うございます。これまでの
歩みは決して楽な道のりで
はありませんでしたが、本
当に多くの方々の祈りと励
ましに支えられてきたと実
感しています。助祭職の務
めは奉仕です。喜びの知ら
せである福音をいつも喜び
伝え、絶えず祈りの奉仕を
怠ることなく、主が備えて

くださる道を皆様と共に感
謝のうちに歩む奉仕者とし
てこれからも成長してくこ
とが出来ようこれからも
皆様の祈りと励ましをお願
いいたします。

殉教地・巡礼地ネットワーク
「浦上キリシタン流配
一五〇年（二〇一八〜
二〇二三）」
ロゴマーク決まる

一八六八年七月、明治政
府は、禁制を犯して信仰を
守り続ける浦上キリシタン
の中心人物百十四人を、
萩、津和野、福山へ流刑に
処しました（三ヶ所とも広
島教区内）。

今年は流配一五〇周年の
記念すべき年になります。
一八七〇年一月、残され
た家族三千三百人近くが、
二十藩二十二ヶ所に流配さ



新しいロゴマーク

「杖」は、巡礼のシンボルです。
「親子」の姿は、信仰に結ばれた
家族と一緒に「旅」に出されたこ
とを示しています。

広島教区 司祭人事異動（新任地↑前任地）

*異動時期はいずれも復活
祭明けから
《イエズス会》
李相源神父
教区外へ↑山口主任

金洪錫神父
津山主任

《イェズイタス》
教区外へ↑山口主任

肥塚倅司神父
山口島根地区長（光・柳
井主任兼任）

ヴァイタリ神父
教区外へ↑幟町主任

野寄一夫神父
倉吉主任↑鳥取主任

百瀬文晃神父
山口主任

荻喜代治神父
広島地区長（幟町主任兼
任）↑岡山鳥取地区長
（米子主任兼任）

↑細江・彦島主任

山口道晴神父
岡山鳥取地区長（鳥取主
任兼任）↑笠岡主任

佐々木長晴神父
細江・彦島主任

トウアン神父
東広島主任↑玉野主任

↑教区外から

猪口大記神父
玉野主任↑宇部・北若
山・高千帆助任
尹兌榮神父
米子主任

作道宗三神父
細江・彦島主任代行

レイモンド神父（新司祭）
倉敷・玉島・水島助任

↑祇園助任

《淳心会》
バート神父（新司祭）
幟町助任

《ミラノ宣教会》
ブルニ神父
笠岡主任↑教区外から

《フィリピン宣教会》
リカルド神父
観音町在↑西大寺集会所在

《釜山教区司祭》
朴孝鎮神父
防府主任↑倉吉主任

《釜山教区司祭》
大西勇史神父（新司祭）
岡山・岡山南助任

地区便り

山口鳥根地区

＊聖ヨハネ・パウロ二世来日記念行事「平和アピール1981」

山口、鳥根地区は白浜司教を講師に「平和と環境」をテーマに行われた。

司教はご自身の力強い言葉で難解な「ラウダート・シ」を私たちの心に真っ直ぐに届けてくださった。今異変が起きていて自然も人間も悲鳴をあげている。これらはすべて人間のしわざ。神、隣人、大地これら三つとの関わりの調和があつてこそ真の平和だと強調された。求められているのは私たちの意識の変化。



「ラウダート・シ」について語る白浜司教 宇部教会

岡山鳥取地区

＊ファティマの聖母のご像を迎えて（倉吉教会）



聖母像を囲んで、倉吉教会聖堂

昨年十二月十六日、鳥取教会からファティマの聖母像を迎えました。ファティマの聖母記念世界平和祈願に始まり、「フランシスコの平和の祈り」「聖母の連祷」そして、「ロザリオ」毎日祈りの一週間を過ごしました。聖テレジアこども園の園児達もお祈りに来しました。最初悲しげだったマリア様のお顔が最後はやさしいほほえみをうかべている様でした。そして十二月二十三日、米子教会へ向かつていきました。平和の元后、私たちの為にお祈り

どうか私たちが変われますように！

広島地区

＊聖ヨハネ・パウロ二世来日記念行事「平和アピール1981」

二月二十五日（日）世界平和記念聖堂で聖ヨハネ・パウロ二世来広三十七周年記念ミサがイエズス会の梶山義夫神父の司式によってささげられました。約四百名が参列しました。

その後、十一時より、多目的ホールにおいて、梶山神父の講話があり、約百二十名参加しました。

講話は「広島から平和を考える」をテーマに広島出身の梶山神父から明治維新後、城下町広島が明治政府の富国強兵政策の中、近隣のアジア諸国



梶山義夫神父

ください。

海峡からの風 48

下関労働教育センターだより

「改竄」ではなく「隠滅」

我が山口四区のご夫妻が関わる件で、財務省の文書を「改竄」か「書き換え」かと、その用語が世間を騒がしている。個人的にはそのいずれでも無く「隠蔽」とか「隠滅」が適切と考えている。ネットで見かけた記事に、十七年前渦中の御仁が内閣官房副長官だった時、国際女性戦犯法廷について特集したNHKの番組に政治的圧力をかけ、NHKの上層部に「忬度」させて、放送内容を改竄させたことを先例として挙げたものがあつた。それは政府の主張である「慰安婦問題は解決済み」に矛盾する「事実」を隠蔽すること、特に東ティモールのおぼあちゃんたちの証言は何がなんでも隠滅させたかったのだ。何故なら、東ティモールは大戦当時中立国ポルトガルの植民地で、戦後は何ら国家間の賠償も行われず、アジア女性基金においてはインドネシアに占領下で対象外、新たに独立国家となる東ティモ

ルから慰安婦の存在、場合によっては賠償を求められる事は、不都合な事態であるが故に、徹底的に消し去りたかったのだと想像する。百歩譲ってこちらは「国益に反する」がための「隠滅」であるが、今回は単に保身・私利私欲のために、失笑を禁じ得ない。早々に退場頂きたい。

そんなことを考えている時、新田原のシスター亀崎九十五歳の訃報を受けた。医師として、キリスト者として、インドネシア占領下の東ティモールで長年人々を「手当て」して来られた。時にはレントゲンの装置を担いで・・・大正生まれのシスターは根性の足りない私たちに微笑みながら「昭和生まれはダメね」と言われた。はい、私たちはまだまだダメです。どうぞ天国から道をお示しくください。

シスターの働きは決して「隠滅」されることなく、神と人々の心に刻まれ続けるでしょう。哀悼を捧ぐ。

(大城研司)

への侵略戦争に歩んだ歴史について話されました。その後、十四時より平和記念公園の慰霊碑前にて、斎藤神父より三十七年前の聖ヨハネ・パウロ二世来広時のお話をいただき、約二十名が参加し、祈りと歌を歌い終了しました。

***第三十五回「広島キリシタン殉教者祈念祭」開催**

本年度で三十五回目を迎えた「広島キリシタン殉教者祈念祭」が二月十二日、行われました。当日は時折小雪がちづく寒い日でしたが、九時半より、己斐のノートルダム清心学園入口に建立されている「キリシタン殉教之碑」前での「歌と祈り」から始まり、広島近郊の各小教区より信徒・修道者約六十名が参列され、感謝の祈りと歌を奉げました。その後、皆で約十五分の観音町教会まで徒歩巡礼しました。

十時十五分より観音町教会聖堂で約百二十名の方々が参列され「広島キリシタン殉教者祈念ミサ」が執り行われました。司祭団は六名で、ヴィタリ神父（イエ



広島市内にあるキリシタン殉教碑の前で

ズス会・幟町教会主任)の司式で行われ、当日は祭壇の前に広島島の三人の福者(フランシスコ遠山甚太郎、マチアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門)の切り絵とヨゼフ館には列福の礎を築かれた、H・チースリク神父の遺影を掲示しました。ヴィタリ神父は講話のなかで、殉教者と聖人について種々お話しされ、私達はイエス様において一つの家族であり、殉教者と聖人は現代に生きる私達の見本であり恩人です。日常生活のなかであれこれと沢山の用件が発生しますが、イエス様が第一であるということに絶対を忘れないで欲しいと話されました。そして、私達は殉教者(聖人)の生き様を通し

て、しっかりと学ばねばなりませんと結ばれました。ミサ後、会場をヨゼフ館(信徒会館)一階に移し、観音町教会マリア会の皆様の心のこもった手造り軽食を頂きながら楽しく分かち合いをし、午後一時終了しました。

(観音町教会 坂井 恒)

淳心会の新司祭

レイモンド神父は、二〇一七年十月八日、コンゴ民主共和国ボマー教区、聖ルカトリック教会で、バート神父は、二〇一八年一月二十八日、フィリピン共和国セブ教区、聖家族教会で叙階された。赴任先はそれぞれ、倉敷協働体、幟町協働体となる。



パート神父 幟町教会の助任司祭として派遣される
レイモンド神父 倉敷・玉島・水島の助任司祭として、すでに派遣されている

広島教区の施設
福山暁の星女子
中学校・高等学校
37

本校は、フランスに本部を置く「援助マリア会」を設立母体とするカトリックのミッションスクールです。広島県東部唯一の女子校で、創立七十周年を迎えます。「人間は神に愛された存在である」というキリスト教の人間観に基づいて、生徒一人ひとりが与えられた力を最大限に発揮できるように、全人的な発達を目指しています。また、他者の喜びを自らの喜びとする愛の人、「他者のために生きる女性」(Women for Others)の育成を建学の精神とし、教育活動を行っています。

〈ビジョン〉
Akenohoshi Textile ~
① 自己肯定感 (Self-esteem)
② 知性 (Intelligence)
③ 協働・奉仕 (Servant Leadership)

「Textile」は、「織物・布地」を意味します。語源はラテン語の「織られた」からきています。暁の星の伝統は途切れることなく、未来に向かって常に新しく織り続けられています。

また、暁の星では、二〇一八年度より、隔週五日制を実施します。生徒達が自主的に活動で



きる時間を増やし、進路探究や豊かな人間性、生きる力を育むことに、時間を有効に活用してもらいたいと考えています。

学習内容は、現行の習熟度別授業に加え、国語・数学・英語の『基礎学力の定着と学習を深化・探究する時間』を新たに設けます。総合的な学習の時間では、二〇二〇年の大学入試改革に向けて、「言語活動」の充実を図ります。

高校一年時は「進路探究コース」、高校二年時から「人文社会コース」「自然科学コース」の新しいコース制を実施し、生徒の進路実現に向けて、幅広く対応できる学習内容を展開していきます。

青少年の活動

ネットワークミーティング

in北陸

二月七、十一日に富山県砺波市青少年自然の家で、ネットワークミーティング北陸が、『どうもどうぞ*せんまいけ』というテーマのもと行われまし

*「せんまいけ」は富山弁で「～しよう」の意

た。北陸地方でもまれにみる大雪の中、全国各地から百二十名の青年が集い、私たちの今抱えている問題について分かち合ったり、信仰について深め合いました。

開催地である名古屋教区五県（愛知、岐阜、石川、福井、富山）にちなんだクイズが班対抗で行なわれ、正解した班にハートのチップを「どうぞ」と渡され、「どうも」と受け取り…。ハートのチップが多かった上位二班は次

のプログラムで、金箔や漆塗りのビーズを使ってロザリオ作りを！まどめとして、今までに自分が受けた「どうも」の体験や、自分がした「どうぞ」の話を分かち合いました。

最後にハートのチップにこれから大切にしていきたい思いを記し、班のみんなに「どうぞ」と渡しあい、「どうも」と受け取りありました。名古屋教区の各県の頭文字をとって「AGIFF」。

スタッフの方々のおもてなしの心が感じられる、温かい二日間を過ごしました。

私たちが何気なく過ごしている日々の中で、神様から、家族から、友達から沢山のものを頂いています。

「友として一緒に歩むために」



ミラノ外国宣教会
ジャン・ピエロ・ブルニ 神父

去年の八月四日に三年ぶりに日本に戻りましたが、その日に私は七十五歳になっていました。初めてここに来たのは、一九七三年の夏の暑い日でしたが、日本に来るための旅は夢で一杯であったことを記憶しています。

一九六七年にミラノ会の司祭として叙階され、ローマへ道徳的な神学勉強のために送られ、少しずつ新しい時代が生まれていることを悟りました。教会の中で、信仰と社会との関係が新たに考えられ、色々な運動が生まれ、もつと正義と平和に満

ちている社会が実現されるという希望を分かち合うようになりました。宣教師についても、様々な意見があり、植民地の支配者と同盟していたと思う人がいれば、無償の愛で多くの貧しい人々を世話して働いたと思う人もいました。第二バチカン公會議を間違つて解釈して、宣教活動の必要性が曖昧になったという印象もありました。

この雰囲気の中で、ある晩、友達と宣教師が言い出しました。「日本へ行きましょう。新しい方法の宣教地です」。彼が言いたかったのは、日本が、文化の面でも技術の面でも優れた国であり、宣教師は福祉的な活動を考えるのではなく、真剣にこういう社会の中で福音の意味を考える必要があるということです。日本の



経済的な奇跡」についての話も出

ましたが、実際の労働者の状態はどうであろうかと考え、その状態を分かち合うことよって労働者のために福音のメッセージを見出すという計画を立て始めました。

幸いなことに、友達を通して日本のJOC（カトリック青年労働者連盟）を知るようになり、協力司祭たちからも歓迎され、阪神工業地帯の中にある姫路に送られました。そこで望んでいたことが実現することになりました。すばらしい青年労働者に出会い、共に価値のあるものに見定め、お互いに成長し、主イエスのことを色々な方法で伝えることが出来ました。その中で、宣教師である私にとつて、心の中におられる主イエスの働きに気づくという役割を感じるようになりました。

一九八九年のミラノ会の総会で副総長に選ばれることになり、六年間ローマでその役割を果たしながら、ミラノ会の宣教師たちを様々な国で訪問することになりました。さらに私の任期が終わった時に、フィリピンのミンダナオのZamboangaにあった宣教養成センターの責任をと



うにゆふ (青少年情報センター中塚汐音)



広島教区で長年預かってきた二人の叙階式をやつと迎えることができました。たくさんの方々がお祝いに来て下さり、喜んでくださった姿を見て、本当に嬉しく、そしてほつとしています。

これまでのことを思い、大切に考えながら歩んで下さると信じています。これからの働きが神様に祝福されたものになりますように。 (にん)